

島 根

育休経験 長岡さん



保育所からの帰り道で、長男を抱く長岡さん—松江市内で

女性の大変さ実感

長岡さんは2人の男の子のパパ。3年前、長男(4)が1歳になる直前に育休を取った。「当時も、男性の育休取得が叫ばれていたが、『取りにくい』『取れない』というイメージだった」

若手社員が増え、それだけが結婚や出産を迎えた時期でもあった。同社を父が

男性の育児休暇取得を促進する「改正育児・介護休業法」が6月30日から施行されている。父母両方が育休を取る場合は、期間が現行(1歳まで)より2カ月延長される。男性の育休取得の利点や課題について、育休を取った経験がある長岡塗装店(松江市)の長岡剛さん(32)に話を聞いた。
【御園生枝里】

心がけ変わりに 家庭円満に

経営していたこともあり、長岡さんは「実績をつくって後輩社員が取りやすくなる制度に」と育休を取得した。長岡さんは自身の経験から「手伝わなきゃいけない」と普段の心がけが変わるきっかけになる。身をもって感じたのは、家庭が円満になること。家庭という基盤ができていないと、仕事に過ごし、家事と育児を両も打ち込めない」と語る。

心配はキャリアアロス

立する「女性の大変さ」「配偶者の協力のありがたさ」をより強く実感した。夫婦のどちらかが子どもの面倒を少しみるだけで、余裕ができることに気がついた。

同社は、仕事と子育てを両立できる雇用環境を整備した企業として、県内で初めて「次世代育成支援対策推進法」に基づく認定を受

一方でキャリアが一時中断される「キャリアアロス」への心配を認め、「中小企業の方が取りやすい」と指摘した。

島根労働局によると、09年度の雇用保険の育児休業基本給付金の支給者数は1万1677人。うち男性は4人のみだった。